

【点検・評価】 「進路統計表」は、アドミッションセンターや広報センターが学生募集の資料の一部として使用するために速報として仮データで提示し、学校基本調査資料の作成が終わった5月1日以降に最終的な正式データに書き換えている。毎年蓄積されたデータはそれぞれの年度の進路指導に活用されており、評価できるものである。また、進路統計データは蓄積され、学内の進路指導に活用されるばかりではなく、キャリアサポートセンターのホームページからも修正を加えないまま情報を外部へ公開しており、企業等の採用担当者や本学への受験希望者やその保護者、および他大学の関係者らが自由に閲覧できるようになっていることも評価できることである。

【課題・方策】 基本的に、今後も可能な範囲で学外へ向けて本学の就職に関する情報を提供していく予定である。課題を挙げるとするならば、在学生、および卒業生のデータは十分に整備されているが、卒業後の就業状況などに関するデータ整備が今後の課題であり、同窓会とも連携しながら卒業生との継続的な繋がりを確保する体制づくりを行っていく。

4 課外活動

1) 課外活動に対する指導、支援

(A群:学生の課外活動に対して大学として組織的に行っている指導、支援の有効性)

【現状の説明】 大学における自主的課外活動は、正課では十分に達成することのできない学生の多様な人間的諸要求とその発達を実現しようとする活動であり、自治活動において自らを練磨するものである。自主的課外活動は、大学教育が目的とする個性豊かな人間形成と組織への順応能力、リーダーシップ、忍耐力、協調性などキャリア形成の重要な要素を獲得するに優れた教育の場であって、結果として就職にも好結果をもたらすことになる。現状において施設面は不十分な点があるものの、学生部は、課外活動が自治活動であることを基本としながら課外活動の育成に努めてきた。他者との繋がりの希薄化、孤立が進む中で、コミュニケーション能力や人間関係構築の教育として、学生自治団体への支援はもとより、学友会団体に所属することのない学生に各種イベントを提供し、社会性のある人材育成に寄与している。特に学生の自主的活動の促進という視点から、学生に様々な気付きを与える企画立案に取り組んでおり、具体的には以下に述べるような学友会活動において、学生を指導、支援している。

(1) 学友会の組織

本学の建学の精神と理念に基づき、人格と教養の向上と会員（学生・教員）の親睦を深めて学生生活を豊かなものとするために学友会が組織されている。学友会には、総務委員会（学生自治会）のほかにヴェリタス祭実行委員会、卒業関連事業準備委員会、フ

レッシュマン・オリエンテーション委員会、リトリート委員会、特別委員会、体育会・文化会連合があり特別委員会には 5、体育会には 12、文化会連合には 9 の公認団体としての部がある。公認団体として同好会は、体育会 8、文化会連合 8 がある。同好会設立申請も毎年数件あるが、学内施設に余剰空間がなく学生からの要望には必ずしも応えられてはいない。部・同好会活動には学生の約 3 割が参加している。公認団体には、教員の顧問を置くこととし、毎年 5 月に団体登録票、顧問等引受承諾書の提出を義務付け、学外活動届、学内活動届、合宿練習計画についても適宜提出を義務付けている。

学友会活動は、学校法人が委託徴収している学友会費によって運営されているが、大学後援会から補助金給付を受け、学友会参事会の議を経て学友会活動に配分されている。

(2) 学友会が主催する活動

① クラブ勧誘DAY

総務委員会（学生自治会）が主催し、新入生を学友会活動へ参加するよう勧誘する催しである。毎年 4 月の第 3 週の 3 日間に開催している。

② リーダーズキャンプ

総務委員会（学生自治会）が主催するリーダー研修会で、学友会各団体から各 2 名の役員を集め 2 泊 3 日の日程で開催する。学外有識者による講演会、ワークショップ、グループ討議を行う。その成果は、大学において発表会を開催し学友会の目標を構成団体にフィードバックし、意識の共有化を図っている。年々、議論の質が向上しており課外活動活性化や自己実現に向けての良い気づきを与えられるキャンプとなっている。

③ 体育祭(ジュベナリス祭)

体育会が主催する体育祭で、新入生歓迎企画として 5 月中旬に開催される。2 月頃より部活動終了後に準備委員会を開催している。

④ 学園祭(ヴェリタス祭)

ヴェリタス祭実行委員会が主催して毎年 11 月に開催し、各種イベントを開催している。準備日・公開日・片付け日をヴェリタス祭期間として 5 日間設けている。

以上のような活動において学友会団体の自主性を尊重しながら、きめ細かな指導、支援を行っている。学園祭（ヴェリタス祭）、体育祭（ジュベナリス祭）、新入生クラブ勧誘DAYの行事では、実行委員会に担当教員、職員が常時出席し、企画立案・実施・評価までを指導している。また、課外活動の活性化支援として、各団体のリーダー養成のためのリーダーズキャンプを学友会総務委員会（学生自治会）とともに企画運営している。このように大学創設から 18 年の若い大学であるが、学生と大学がともに協力関係を保ちながら学生自治と課外活動組織を維持している。

【点検・評価】 学生団体に対するきめ細かい指導は、学友会活動に参加する学生の成長に大いに役立っている。特に学友会の各団体の幹部学生はリーダーシップ、公共性、経理知識を有しているため課外活動による人材育成に効果をあげている。

本学では、学生の約3割が自治活動に参加しているが、その参加者数も年々減少傾向にあり、公認団体（部・同好会）の中には、その存続すら危ぶまれる団体もある。その理由には、他者との繋がり希薄化、リーダーになりたがらない若者や人間力の弱さを感じざる学生が急増しているなどの多様な原因が考えられる。また、本学にはクラブハウス（学生厚生棟）やサッカー場、野球場など学生自治専用施設が他大学と比較して十分ではないことも問題である。本学では、屋外・屋内施設とも、少人数教育を前提とした教育施設であることから、その収容能力にも限りがあり、通常のクラブ活動では広さ等の面で公式戦には十分な施設とはなっていないためである。

【課題・方策】 課外活動は学生の成長に大いに影響を与える場であり、また正課では得られない人間形成の場として積極的に支援していかねばならないが、特に部や同好会の活動は学生の自主的な活動であるので、大学としては学生の主体性を尊重しながらの支援と指導を常に念頭に置く必要がある。また、学生のキャンパスライフの充実を大学の教育活動の一環として促進するならば、学生の自主的活動を積極的に支援するためのキャンパス空間をどのように形成し提供していくべきかという問題について、単に課外活動や施設の枠組みを超えて、全学的な観点からキャンパスの将来計画を検討する必要がある。さらには、学生が課外活動を楽しむことだけでなく、併せて社会的体験となり、将来のキャリア形成に役立つよう、学生参加型の運営をこれまで以上に進めていくことが重要である。

2) 課外活動の国内外における水準状況と学生満足度

(C群: 学生の課外活動の国内外における水準状況と学生満足度)

【現状の説明】 学友会に所属する体育会系クラブ、文化会系クラブとも残念ながら高水準に達しているとはいえず、今後の修練が期待される。

本学は課外活動のための組織の整備や練習施設が十分ではなく、学生達は限られた環境の中で、自助努力により課外活動をしている。そのため、全体的に課外活動は低調であり、満足度も低いと言わざるを得ない。このように課外活動が低調である要因としては、施設面などの不十分さと共に最近の学生気質に起因するもの、学生自身の興味が多岐にわたり私生活が多忙となったこと、就職活動が早まったことなども挙げられる。なお、2005年度より体育会部活動活性化のパイロットプランとして陸上競技部を重点強化部に指定し、外部より監督、コーチを招き、選手育成の基礎を固めた。また専用陸上グラウンドとして山田宏臣記念陸上競技場が完成し、本格強化練習が可能となった段階で

ある。

【点検・評価】 課外活動の水準は、大学としてどの程度力を注いでいるかということと大きく関わっている。その意味では、本学では従来課外活動への支援は、残念ながら十分ではなかったと言える。しかし、一部の大学では広報活動の一環として、立派な施設を準備し、有能な指導者を招き、スポーツ推薦を行ったり力のある外国人留学生を集めたりすることによって大学の水準を一気に引き揚げようとする動きも見られる。確かに運動系クラブに所属する学生の活躍などは、その学生のみならず、一般の学生の母校に対する帰属意識高揚の面からは効果が高いとも言えるが、大学としての本来の課外活動のあるべき姿からは評価は難しいところである。本学では、特定の学生のための課外活動ではなく、一般の学生のキャンパスライフを充実させるという側面から、施設や指導者の充実を図る必要がある。また、課外活動の充実やそれに対する学生の満足度は、単に施設の充実のみならず、普段の活動を通してどのような出会いが起こり、また喜びを感じることができるか、ということにかかっている。たとえ水準は高くはなくても、活動を通しての充実感や満足感を得ることができるような支援を考えていく必要がある。

ただし、そのような観点からしても、本学の場合は施設・設備の整備は不十分を言わざるを得ない。現在のところ本学の課外活動専用施設は、簡易的な施設が多いため、部会・同好会室、音楽練習室やダンス練習場、集会室、学生ラウンジ、ロッカー室を兼ね備えた学生厚生棟の建築が急がれている。

【課題・方策】 本学における課外活動については、それに対する指導や支援を検討すると共に、課外活動に対する一般学生の意識・興味が著しく減退していることを課題として挙げなければならない。このことは本学のみならず多くの大学で指摘されているところでもあるが、課外活動が本来の目的を離れて、大学の広報手段となっている場合も少なくないのではないと思われる。最近、学生の自治意識は極端に薄らぎ、自己中心的な傾向が強まる中であって、本学の学友会はその 1989 年度の開始当初より学生と教員の組織として活動してきた。数年前は、ともすれば崩壊しかねない学生自治活動の活性化が目的とされた時期もあったが、2000 年度から力を入れてきた「リーダーズキャンプ」等において学生部委員（教員）との面談を初めとして、懇親会、反省会等、学生代表と教職員が直接話し合える場をさまざまな形で設定することで学生のやる気、意欲を引き出してきた。課外活動が活性化することは大学自体の活性化につながることであり、学生部のみならず教授会全体として学友会活動を中心とする課外活動の活性化とその支援に向けて、大学としての方向性を打ち出していく必要がある。

3) 学生代表と定期的に意見交換を行うシステム

(C群: 学生代表と定期的に意見交換を行うシステムの確立状況)

【現状の説明】 学生は大学の主要な構成員であり、大学の自治や学問探求の担い手であるという観点から、本学は、以下に述べるように学生代表との意見交換の場を重要視し、複数設けている。以下において、定期的な意見交換の場についてそれぞれ具体的に述べる。

(1) リーダーズキャンプ

「リーダーズキャンプ」は、毎年9月に2泊3日で教職員と宿泊を共にしながら意見交換を行う催しである。グループミーティング、全体ミーティング等を通してさまざまな意見交換を行っている。さらに、全体会では協議内容を大学への要望事項（「リーダーズアピール」）としてまとめ、大学に持ち帰り、反省会において学生部委員会に提出し、教授会に提案している。この「リーダーズキャンプ」において提案され解決された事例も多い。

(2) 学園祭実行委員会との面談

毎年11月に行われる学園祭（ヴェリタス祭）について、学生実行委員会との面談を行っている。大学の管理責任を説明し、近隣住民の生活を侵害することなく学園祭を実施することができるよう、学園祭の運営方法について学生と意見交換をしている。2004年度には北キャンパスにチャペルが完成したが、新チャペルに適したコンサートの企画立案について支援をした。

(3) 会計監査の活用

1998年より毎年2月に学友会団体すべての会計監査（決算前の中間監査）を実施している。この会計監査は総務委員会が主催して行っているが、学生部長、学生部委員、学生課職員も参加して会計事務処理基準に基づいた会計がなされているか監査している。この監査では、クラブの活動状況やクラブの様子等も直接確認ができるとともに、各団体代表者と直接話ができることも重要で、これらの情報を汲み取り課外活動支援に当てることができる。

【点検・評価】
【課題・方策】

学生代表との面談が年間を通して定期的に実施されるように計画されており、かつ、それが有効な形で実施され、それによって教職員側と学生団体とが学生の力を有機的に活かしながら協働してきた実績は高く評価される。そうした相互協議の場から、さらに学生たちの力を引き出すことができるような相乗効果を狙ったプログラムが提案され実施されている。その一例として、毎年春・秋に実施されている「クリーン・キャンパス・キャンペーン」（通称CCC）がある。これは、キャンパスから最寄り駅までの「清掃キャンペーン」であり、学生たちがゴミ拾いなどをして大学周辺や宮原駅・日進駅までの道のりを清掃するものであり、地域住民から歓迎されている。こうした取り組みをさらに

第10章 学生生活

推進して行くためには長期的支援が必要であり、また学生団体同士の横のつながりの強化を支援していく必要がある。しかし、一方では学生代表に立候補する学生が減少傾向にあり、自発性に乏しい学生代表も見受けられることから、学生代表団体の構成員確保への新たな制度を構築しなければならない。